



ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン2020

ダイワハウス スペシャル

festival hall

# ワレリー・ゲルギエフ 指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

WIENER PHILHARMONIKER WEEK IN JAPAN 2020

DaiwaHouse Special

VALERY GERGIEV Conducts WIENER PHILHARMONIKER

第58回 大阪国際フェスティバル2020 58th Osaka International Festival 2020

もとめあう理想、満ち足りた感動の週間と き



© Lois Lammerhuber



チェロ: 堤 剛

Tsuyoshi Tsutsumi, Cello

© 鍋島徳彦



ピアノ: デニス・マツエフ

Denis Matsuev, Piano

チャイコフスキー: ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33  
(チェロ: 堤 剛)

プロコフィエフ: ピアノ協奏曲第2番 ト短調 作品16  
(ピアノ: デニス・マツエフ)

チャイコフスキー: 交響曲第6番 ロ短調 作品74 「悲愴」

Pyotr Ilyich Tchaikovsky: Variations on a Rococo Theme in A Major, Op. 33 (Tsuyoshi Tsutsumi, Cello)

Serge Prokofiev: Piano Concerto No. 2 in G Minor, Op. 16 (Denis Matsuev, Piano)

Pyotr Ilyich Tchaikovsky: Symphony No. 6 in B Minor, Op. 74, "Pathétique"

2020年11月6日(金) 19:00開演(18:00開場)  
Friday, November 6 at 19:00

## フェスティバルホール

S 37,000円 A 34,000円 B 29,000円 C 24,000円 D 19,000円 E 14,000円  
【チケット料金】SS 39,000円 BOX 44,000円 バルコニーBOX(2席セット) 74,000円

全席指定・税込 ※バルコニーBOXはフェスティバルホール チケットセンター(電話)のみ販売

好評発売中

お問合せ フェスティバルホール 06-6231-2221 (10:00~18:00)

※出演者・曲目に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
※就学前のお子様同伴・入場はご遠慮ください。

【主催】朝日新聞文化財団/朝日新聞社/大阪国際フェスティバル協会/関西テレビ放送/フェスティバルホール 【特別協賛】大和ハウス工業株式会社  
【協賛】アイリスオーヤマ、京阪ホールディングス、塩野義製薬、日立製作所 【後援】オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム、ロシア大使館

## ゲルギエフ、16年ぶりにウィーン・フィルと大阪で「悲愴」。ソリスト2名を迎える特別プログラム！

2004年に初めて「ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン」に登場したゲルギエフ。その時の大阪公演（会場：フェスティバルホール）ではウィーン音楽とチャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」を演奏し、聴衆を大いに沸かせました。そこから数多くの共演を重ね2016年には南米ツアーを大成させるなど、深い関係を築いてきたゲルギエフとウィーン・フィルが、16年ぶりにフェスティバルホールへ登場。再び「悲愴」を披露します。また、プログラム前半には日本の至宝・チェロの堤剛とチャイコフスキー「ロココ風の主題による変奏曲」、ロシアを代表するピアニストの1人、デニス・マツエフとプロコフィエフ「ピアノ協奏曲第2番」を演奏。大阪公演限定の贅沢なプログラムに期待が高まります。



©Marco Borggreve

### ワレリー・ゲルギエフ(指揮) Valery Gergiev (Conductor)

ゲルギエフが1996年マリンスキー劇場の芸術総監督に就任して以来、劇場は世界に類がない程の、大規模な劇場とコンサートホールから成る複合施設となった。国際舞台においてもゲルギエフは精力的に活躍しており、世界の名だたる歌劇場での公演を成功させ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ほか多数のオーケストラと共演している。1995年から2008年まではロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、2007年から2015年までロンドン交響楽団の首席指揮者、2015年秋からミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務め、2018年の夏からヴェルビエ音楽祭の音楽監督も務めている。

ゲルギエフは、「白夜の星」音楽祭、モスクワ復活祭音楽祭、ロッテルダムのゲルギエフ・フェスティヴァル、ミッケリ音楽祭、ミュンヘンの360度フェスティヴァルなど、いくつもの格式の高い音楽祭の創設者兼監督であり、2011年からはチャイコフスキー国際コンクールの組織委員長も務めている。

### 堤 剛(チェロ) Tsuyoshi Tsutsumi (Cello)

名実ともに日本を代表するチェリスト。桐朋学園で齋藤秀雄に師事。1961年インディアナ大学に留学、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。63年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位入賞。2009年秋の紫綬褒章を受章。13年文化功労者に選出、17年毎日芸術賞受賞。イリノイ大学教授(1984~88年)、インディアナ大学教授(1988~2006年)を歴任し、現在、桐朋学園大学特命教授(前学長 2004~13年)。07年9月よりサントリーホール館長。日本芸術院会員。



©鍋島徳恭



### デニス・マツエフ(ピアノ) Denis Matsuev (Piano)

1998年の第11回チャイコフスキー国際コンクールで優勝して以来、デニス・マツエフはロシア・ピアノの伝統を継承する名手となり、瞬く間に同世代における最も卓越したピアニストの一人としての地位を確立した。ロシア国内にとどまらず、世界の名門オーケストラとの共演、名だたる音楽祭への参加、著名な指揮者との共演を重ねるほか、長年にわたり多数の音楽祭や教育プログラムを先導している。2019年には第16回チャイコフスキー国際コンクールのピアノ部門審査委員長を務めた。

## ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 Wiener Philharmoniker

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の歴史は、1842年、ニコライの指揮で行われたコンサートで幕を開ける。当初のコンサートは不定期であったが、1860年エッケルトの指揮で第1回の定期演奏会が開かれ、以来今日まで続けられている。現在、本拠地ウィーンの楽友協会(ムジークフェライン)大ホールでの定期演奏会のほか、ニューイヤー・コンサート、ザルツブルグ音楽祭への出演を中心に世界中で活動している。日本には1956年ヒンデミットの指揮で初来日、2020年で36回目の来日となる。

# 2020年11月6日(金) 19:00開演 (18:00開場) フェスティバルホール

ご予約・お問合せ

フェスティバルホール チケットセンター

06-6231-2221 (10:00~18:00)

フェスティバルホール オンラインチケット

<https://www.festivalhall.jp> (要事前登録)

その他の  
プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 183-339) <https://t.pia.jp/>  
ローソンチケット 0570-000-407 (Lコード 53399) <https://l-tike.com/>  
CNプレイガイド 0570-08-9990 <https://www.cnplayguide.com/>

イープラス <https://eplus.jp/>  
セブンチケット <http://7ticket.jp/sc/21nh>